

(2) 医療体制の充実

八雲総合病院は、平成25年度からの改築工事が終了し、度から改築工事が終了し、度から改築工事が終了しました。現在の病院経営は、医師など医療従事者の地域偏在が著しく、マンパワーの不足、医療圈人口の減少などが相まり厳しい環境が続いている。医療サービスの向上と持続可能な経営を図るために、引き続き、医師の確保と診療体制の整備に努めています。さらに、地域で安心して医療を受けられるよう、病院、病診、保健・福祉サービス機関との連携を強めるため、地域医療連携室の新設や、経営管理システムの導入により医療の質と収入の向上、経営の見える化を進め、町民に愛され信頼される病院づくりを進めていきます。

(3) 地域福祉の促進

人口減少や少子高齢化が進む中、住み慣れた地域でいつ

までも安心し健やかに暮らすため、お互いを思いやり、支え合うことが必要です。

各町内会や民生委員協議会等関係団体と連携し、地域の人々の結びつきを深めるための声掛けや見守り活動などが推進されるよう支援していきます。また、社会福祉協議会と連携を図り、引き続きボランティア団体の活動支援や地域ボランティアの育成、人材確保への支援に努めています。

(4) 高齢者福祉の推進

八雲町の高齢化率は32%を超え、今後も高齢化は進んでいくと想定されます。平成29年度に「八雲町高齢者保健福祉計画・第7期介護保険事業計画」を策定し、高齢者が安心して健やかに暮らし続ける地域社会を目指し、八雲町らしい地域包括ケアシステムの深化・推進に取り組んでいきます。

熊石国保病院は、住み慣れた地域で安心して医療の提供を受けられる「かかりつけ病院」として、高齢化する地域住民のニーズに対応した医療サービスや救急医療体制の充実を図り、病院経営の健全化に努めています。

子育てに関する相談、地域に出向いた活動や未就学児の通し子育て支援センターや、地域の活動や未就学児の支援を必要とする高齢者が増えており、多様な主体による生活支援サービスの充実が求められています。平成30年度からは生活支援コーディネーターを配置し、生活支援の担い手の発掘や地域資源の開発に取り組みます。

組みを進めていきます。また、単身世帯で支援を必要とする高齢者が増えており、多様な主体による生活支援サービスの充実が求められています。平成30年度からは生活支援コーディネーターを配置し、生活支援の担い手の発掘や地域資源の開発に取り組みます。

子ども発達支援センターは、発達の遅れや障がいのある児童とその家族への支援のため、発達相談や療育事業の支援体制の充実を図り、関係機関と連携協力しながら適切な支援に努めています。また、「育ちと学びの応援ファシリ―カラフル」の活用を通してのスポーツ施設共通利用券の購入費用の一部を助成し、年間を通してスポーツ活動を推進し、高齢者の健康づくり・体力の向上を促進しています。

組みを進めていきます。また、単身世帯で支援を必要とする高齢者が増えており、多様な主体による生活支援サービスの充実が求められています。平成30年度からは生活支援コーディネーターを配置し、生活支援の担い手の発掘や地域資源の開発に取り組みます。

(6) 障がい者福祉の推進

平成30年度は、子育て支援事業計画の4年目となり、引き続き計画に基づき子育て支援事業を展開し、次期計画(平成32・33年度)策定に向け準備をすすめています。

子育て支援を充実させるため、認可保育園、幼稚園の利用者負担金の軽減を図り、引

き続き子育て家庭のニーズに応じた支援策を検討していきます。

「社会の一員として自立し成長できるまち」の3つを掲げて、発達相談や療育事業の支援体制の充実を図り、関係機関と連携協力しながら適切な支援に努めています。また、「障がい者の経済的自立・社会参加の促進の観点より、障がい者が地域で自立した生活を送ることができるように、障害福祉サービス、地域生活支援事業の充実および利用の促進に努めています。また、障がい者の経済的自立・社会参加の促進の観点から就労支援を推進するため、就労支援事業所などの関係機関と連携していきます。

熊石地域の保育園運営は、保護者などとの情報共有し議論を深め、引き続き具体的な統合に向けた協議をしていきます。

熊石地域の保育園運営は、保護者などとの情報共有し議論を深め、引き続き具体的な統合に向けた協議をしていきます。

熊石地域の保育園運営は、保護者などとの情報共有し議論を深め、引き続き具体的な統合に向けた協議をしていきます。